

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 4 号

令和元年 9月 30日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

9月 4日 (水)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

提案 広田 哲 先生 (西富岡小)

田川 晋啓 先生 (山元小)

司会 呉屋 雄紀 先生 (師岡小)

宮本 尚樹 先生 (滝頭小)

記録 片山 光 先生 (日下小)

小川 崇紀 先生 (丸山台小)

単元名「今に伝わる伝統行事」～横須賀の二つの虎踊り～

横須賀の虎踊りについて

⇒二つの虎踊りがある。(野比と浦賀)

【児童の実態】

- これまでの学習でも単元を見通す学習問題を意識させてきた。
- 学力的に高い子が多い。

○伝統文化の継承を体験を通して考えさせていきたい。

【視点①】学習計画づくり

○単元の導入⇒知っている年中行事を出し合う。⇒先生から「虎踊り」を提示。

- 学習調整力を意識していきたい。
- 単元のふり返しとして、単元を見通す学習問題のふり返しを通してもっと調べたい。

【視点②】

○自分ごととしてとらえさせていきたい。

○子どもの社会認識のずれから学習問題をつくっていきたい。

【教材について】

○虎踊りは1720年に奉行所が下田から浦賀に移った時に伝わった。

○浦賀は虎が2匹、約300年の歴史。野比は虎が一匹、約160年の歴史。

【単元構想】

○単元を見通す学習問題がこれでよいのか。

○本気の学習問題

- ・小学生にも興味をもってもらうため虎踊りの体験会をはじめた。⇒事実をもっと掘り下げていき、子どもたちに見せていくとよいのでは。

○浦賀に伝わってきたところからの地域の人々の思い。⇒地域活性化がねらいだった。

⇒それが子どもたちに伝えていけるようにしていくとよいのでは。

○単元の前段階で子どもの認識のズレを引き出せるとよいのでは。

○戦後、復活させた野比中村の方たちはなぜ復活させたのか。

⇒子どもはせまりやすい。中断していたこともあるのに…という点もせまりやすい。

○虎踊りは、浦賀は毎年。年1回。野比は隔年。

○「ふるさと祭り」

○子どもに「続けていく大変さ」を実感させることが大切。

○社会的事象をいかに子どもたちをせまらせるか。

単元名「わたしたちの神奈川県」～伝統を受け継ぐ箱根町の寄木細工～

○授業者より

- ・課題が多い児童も少なくないが、クラス全員で考え、一人一人が自分の考えをもてるようにしたい。
- ・寄木細工の学習については過去の実践例も多いので、たくさんご指導いただきたい。
- ・「箱根には寄木細工が必要」という思いから「箱根のまちづくり」につなげたい。

○検討会より

- ・「箱根のまちにとって寄木とは？」について田川先生（授業者）が考える答えは？
→「もうなくていいんじゃないか」という意見もあるかもしれないが、「ないと困る」と考える子もいるはず。寄木を通して箱根のまちづくりについて考えさせたい。
- ・本単元の箱根は地理的にも子どもから距離がある。子どもたちに学習を身近に捉えさせるための手立ては？
→宿泊体験学習で寄木細工体験に取り組んでいる。そこでの自分が作成した作品と、職人さんの作品を鑑賞した経験から寄木細工のはじまりや作り方に興味をもたせたい。

また、寄せ木細工職人のKさんとの出会いを大切に、箱根駅伝の優勝トロフィーの実物を見せていただいた経験からも興味をもたせたい。

- 単元構想と指導評価計画の「単元を見通す学習問題」が違っているが？
→はじめは「箱根のまちにとって寄せ木細工とは」という学習問題は子どもたちから出ないと考えられる。子どもたちには「これから横浜とは違う『まち』について見ていこう」と話していく。
- 箱根のまちには寄せ木細工以外にも温泉などの見所が多い。本単元ではどう取り上げるのか？
→今回は伝統工芸の寄せ木細工に絞って取り上げたい。まちづくりにとっての伝統工芸品の役割について考えを広げていきたい。また、11月の鎌倉の学習でも、観光地としてのまちづくりについて取り上げる。本単元に向けての布石としても「まち」に意識をもたせられるよう促したい。
- 寄せ木細工の価値について迫る手立てとして「高価な寄せ木細工は、どんな人が、なぜ買っていくのか」を考えさせても面白いのではないか。
→昔は生活用具の一種装飾として買われていたが、現在は伝統工芸品として買われている。材料費も高額な「ムク」の技法にチャレンジされたKさんの寄せ木細工と箱根のまちに対する思いについても考えさせたい。
- 箱根のまちのよさにつなげるためには3時間目の「箱根のまちはどんなところかな」を大切に扱いたい。
→単元の導入で地図をしっかりと見せ、地理的条件について確認したい。3時間目の資料や掲示物をよりどころにして、視点①のように一つの資料を何度も活用しながら、じっくり読み取らせたい。

<世話人校長先生より>

- 地域の活性化のためには、地域の材を活用することが重要である。他の地域の素材をもってきて活用するのではなく、その地の特色を活かした材を取り上げることが地域の活性化につながる。
- 伝統工芸品を受け継いでいらっしゃるKさんの言葉を大切に取り上げたい。寄せ木細工という伝統工芸への思いや、箱根・畑宿への思いを子どもたちに感じさせたい。

文責 岡崎 巨樹 (山下小学校)